

## 第2回 湖西市 在宅医療・介護連携多職種研修会 アンケート集計結果

内容 : アドバンス・ケア・プランニングの重要性と実践

日時 : 2025/10/22 (水)

講師 : 講師: 聖隷三方原病院 緩和支援診療科 森 雅典 医師

参加者 : 現地 27名・オンライン37名

アンケート回答: 21名

Q1

| 所属         |   |
|------------|---|
| 病院         | 6 |
| 診療所        | 4 |
| 歯科医院       |   |
| 薬局         | 1 |
| 訪問看護ステーション | 2 |
| 通所系介護事業所   | 2 |
| 地域包括支援センター | 3 |
| 居宅介護支援事業所  | 1 |
| 入所系介護事業所   | 1 |

Q2

| 職種(重複あり) |   |
|----------|---|
| 医師       | 5 |
| 歯科医師     |   |
| 薬剤師      | 1 |
| 看護師      | 9 |
| 保健師      | 2 |
| 社会福祉士    | 1 |
| 理学療法士    | 1 |
| 介護職員     | 1 |
| 介護支援専門員  | 1 |
| 相談員      |   |

Q3 研修の内容はいかがでしたか。あてはまるもの一つに○及び理由をご記入ください。

| とてもよかった | よかった | あまりよくなかった |
|---------|------|-----------|
| 19      | 2    |           |

Q4 日々の仕事、ご自身の日常に活かせる内容でしたか。あてはまるもの一つに○及び理由をご記入ください。

| はい | いいえ | わからない |
|----|-----|-------|
| 20 |     | 1     |

Q5 自由意見

### 1. 研修内容への評価

- ・ACPについての知識整理ができた。
  - ・顔の見える関係性の構築がACPだけでなく、緩和ケア、在宅医療、地域医療にも繋がる。
  - ・具体的な場面での症例が多くあり想像しやすかった。
  - ・ACPについて改めて考える機会となった。ACPの考えで利用者に対応していきたい。
  - ・実際の現場に携わっている先生の経験や事例を聞くことができたから。
  - ・症例で具体的に対応を考えることができた。
  - ・全国レベルの内容でした。
  - ・実際の事例を取り入れながら、話をしていただきとても分かりやすかったです。本人様やご家族がACPが介入することで心残りが少しでも少なくなるようにできると良いと思います。
  - ・1例1例に対しての深い関わりを感じました患者さんのみならず、チーム内の個々の構成員にまで行きわたった配慮がチーム全体を押し上げて行くという考えに感銘を受けました。また日々の当たり前のやり取りを通して、本人家族を知ることが心の準備のための種撒きになるのだと改めて理解しました。
  - ・ACPは手段であり、いくつかのアプローチのうちの1つである。
- ACPを含めたアプローチや多職種連携が大切だと学んだ。
- ・介入のタイミングや森先生の経験談を含めた幅広い視点からの講義でとても参考になりました。ケアの質やQOLもあげていけるよう院内外の多職種連携を強化したい。

## 2. 日常・業務への活用

- ・チームでのACP チーム力
- ・実践できることから初めてみようと思った。
- ・人生の最終段階における人とその家族、お互いが悔いの残らない生き方ができるよう専門職として橋渡しの役割がある。
- ・患者さんの心残りができるだけないようにケアすることは、残された家族の今後の支えにもなり、グリーフケアにも繋がっていく。
- ・本人に伝えていいことと家族に伝えていいことが同じでない場合が多々あり悩む。
- ・医療者目線でのACPになってしまっていることが多々ある。患者本人の自立性・価値観を中心に介入できるようにできればと思う。死生観という言葉があるが、ACPは生死観でどう死ぬかではなく、どう生きるかだと思う。
- ・利用者さんに馴染みのないACPをどれだけ解り易く、良きタイミングで聞き出すかということ。
- ・切り出すタイミングや伝え方が難しいと思います。
- ・病院内での医師の時間が取れない。医師サイドでACP理解がなされていない。
- ・日頃タイミングが難しいと感じていましたが、今日の先生のお話を伺って日頃交わしている会話がまさしくACPであると認識できました。1回だけで終わるものでもなく、チームで分担しながらもありで、ここに意識していきたい。
- ・なかなかゆっくりと向き合う時間がとれないこと。
- ・ACPを導入するタイミングや以下に利用者さんと話しやすい関係性を築くのが難しいと感じた。
- ・入院時はICなど家族中心になることが多い。本人を尊重することにも意識を向け、医師へ声かけていきたい。

## 3. 改善点・課題

- ・ACPを行うタイミングに関しては答えはなく、臨機応変な対応が必要で、タイミングを間違えればトラブルにもなりかねない。
- ・医師の意識改革
- ・自分の意志や意向に沿わない救急搬送DNAR

## 4. 今後の課題・要望

- ・地域包括ケアシステムの構築 ・グリーフケアをどのように行っているか
- ・連携していく中で医療職と介護職など業種の壁があり、相談や連絡がとても大変で難しい。
- ・在宅医療について事例を交えて学んで行きたい。(在宅で看取ってどうだったかも含めて)
- ・実際にACPがなかなか進まなかった事例の見当など。
- ・退院に向けて事業所と調整していることはお伝えしていても、急に明日退院しますと連絡が来ることがあり困ります。介護サービスを急にいれることは難しいことも医療サイドにも理解していただきたいと思うことがある。 ・行政との関わりかた。福祉と医療の連携
- ・通院から訪問診療への切り替えについて
- ・医療と連携するにあたって、主治医の先生は忙しいため連絡をとりづらいつと感じる。

## 5. まとめ

### 1.患者中心のケアの重要性:

- o参加者は、研修を通じて「患者本人を尊重すること」「家族中心のケアから、本人の意向を尊重した医療を進めること」に対する意識が高まった
- o具体的には、入院時の医師との連携や、本人を中心に考えた医療の進め方に役立てたい

### 2.ACP(アドバンス・ケア・プランニング)導入の難しさ:

- oACPの導入タイミングや、患者さんとの関係性構築の難しさを感じている具体的には、患者との信頼関係を築くことがACP実施の鍵であると感じており、日常業務での会話の中で患者と話しやすい雰囲気を作り出すことが課題

### 3.時間の確保と介入のタイミング:

- o研修で学んだ内容を業務に活かす上での課題として、「時間を取ってゆっくり向き合う時間がない」と感じている。特に、忙しい日常業務の中で、患者に十分な時間をかけて向き合うことが難しい。

### 4.多職種チームでの連携の強化:

- o研修内容を実務に活かすため、医師、看護師、介護職などの多職種での連携をさらに強化し、チーム内で情報共有を円滑に進めることが重要であると考えている。特に、チーム内の協力が在宅医療の質を向上させると感じた。

### 5.地域との連携:

- o研修を通じて、地域の実態を把握し、地域との連携を強化する重要性を再認識した。例えば、退院時の調整や在宅でのケアがスムーズに行えるように、地域包括支援センターとの連携をより密にしていきたい。

